

敬老の日 お花のプレゼント



敬老の日恒例の「お花のプレゼント」施設長が各ユニットを回り、感謝と敬意を込めてお花のアレンジメントをプレゼントしました。お花を見ると自然と笑顔があふれ、ユニット全体が元気な笑い声に包まれました。



はなさかさかす

社会福祉法人報徳会
広報紙 (季刊)
令和5年秋号
発行責任者
理事長 内田善久

インフルエンザにご注意

報道されている通り、今年は季節外れのインフルエンザが流行の兆しを見せています。これからインフルエンザウイルスが大好きな空気の乾燥する季節を迎えると大流行も予想されます。コロナウイルス感染症と同じく、予防策は手指の消毒とマスクの着用です。コロナの陰に隠れていたインフルエンザもハイリスク者には命に関わる場合があります。ご用心を！



デイサービス

機能訓練を開始しました。ボールや棒を使った簡単な動作で日頃動かしにくい筋肉を刺激し、健康と生活を支える運動を行います。

機能訓練始めました



はなさか連載コラム ⑭

「未来への後ずさり」―湖に浮かべたボートを漕ぐよこし

社会福祉法人報徳会理事 岩壁 清吉



そのカメラマンは父祖伝来の関東大震災前から所蔵する写真機を巧みに操り、コロナ禍で「還暦」の二年後の同窓会に参じた一七〇余名の肖像を撮り収めた。―今夏、「未来への後ずさり」の一風景。

「過去を懐かしむこと」は、単に懐古趣味ではないと識る光景。《湖に浮かべたボートを漕ぐように

人は後ろ向きに未来へ入って行く

目に映るのは過去の風景ばかり

明日の景色は誰も知らない ≪ (ポール・ヴァレリー) 》

ボートを漕ぐような、あるいは楯田球のラグビーボールを扱うような「後ろ向き」の態勢でゴール、トライをめざす意義の教え。

同時期、同じ「乗組員」であったことの縁で招かれた同窓会、その思いは弥増す。毀誉褒貶、我が言動に些かの誇負と慚愧の極み。

「教えることは、教わることであった」と今更に。振り返る時間や場所は、〈前を向くための意志伝達力〉だと教えて貰うことになる。

その細やか証しを、母校の記念誌に著した拙稿で的一幕、開陳。

《高校時代の恩師に、君たちの読書の過程で『萩のもんかきや』という作品に出会ったら知らせてほしいと託された言葉を背景に、

作者中野重治が描く舞台とその女主人公を訪ねることを課題学習にした所、多くの生徒が興味を示した。家紋を一所懸命に書く仕事の

「鼻の高い」戦争未亡人が、30年の歳月を経てもきりりとそこにおられたことの感動を写真に収め、競うように語ってくれたことは自主

見学の意義に一石を投じたかなと思う。《『戸陵百年の歩み』》

恩師門倉正二先生から受け取ったバトン。修学旅行を通して後代の生徒に託す。営みが継続していく実感。「未来への後ずさり」。

先述したカメラマンは、はなさか理事長内田善久。一世紀を越える「過去の風景」を写した名機と持ち前の話術で誘い込み、撮り終えた同級生の「思い出」の陰画、幾枚。「明日の景色」となり、それぞれの手許に届くはず。―《今日より明日》の念いとともに。

祭 祭 勝坂囃子保存会の訪問演奏 祭 祭



勝坂囃子保存会の皆さんが訪問演奏に来設してくださいました。ユニットから駐車場に出て鑑賞して頂き、久しぶりに外で清々しく楽しいひと時を過ごしました。

祝ご長寿



飯村 米子様 100歳

多宝ユニットの飯村米子様は、今年8月に百歳になられました。ご家族様から届いた100本のバラでお誕生日をお祝いしました。



敬老の日記念写真



スタッフ紹介



臥龍ユニットの藤沢美春リーダー。明るく元気、相手思い遣る気持ちは人一倍です。



RUN伴

走ってタスキをつなぎ認知症を啓発するイベント「RUN伴（らんとも）」が4年ぶりに開催され、はなさかも参加。受けたタスキを無事に新磯サービスへつなぎました。



はなさか農園 2023

さと芋が順調に育っています。隣のさつま芋は、から梅雨の影響で苗が半分になりましたが、生き抜いた遅い苗からは生命力に溢れた力強い芋が採れるでしょう。